

入学者選抜におけるミスについて

- 文部科学省より、毎年度12月上旬頃に、大学入学者選抜における出題・合否判定ミス等の防止について、各大学に通知している。

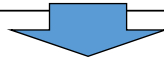
【概要】

・毎年、大学入試において、出題・合否判定ミス、募集要項の作成段階でのミス、追加合格手続きにおけるミス等が発生していることを踏まえ、

- ① 出題・合否判定ミス等がないよう留意して実施すること
- ② ミスが生じた場合は、受験生等への情報提供を含め必要な対応や文部科学省大学入試室に対する第一報を行うとともに、速やかに報告書を提出すること
- ③ 近年の事例を参考に、作題や試験実施の参考とすること

- 入学者選抜におけるミスの件数は増加傾向。

平成19年度 142大学 232件 ⇒ 平成31年度 207大学 421件(65大学増、189件増)



各大学において、**ミスの防止に向けた対応**を行う必要

入学者選抜におけるミスの防止に係る新たなルールの概要

平成31年度大学入学者選抜実施要項(高等教育局長通知)において、以下の事項を新たに規定。

① 入試情報の取り扱い

- ・試験問題、解答は原則として公表(平成30年度 972大学/1032大学・短期大学 公表)
- ・ただし、一義的な解答が示せない記述式の問題等については、出題の意図又は複数若しくは標準的な解答例を公表

② 体制の強化

- ・学長のリーダーシップの下、入試担当の理事、副学長等が入試業務全体を統括するなど、**入学者選抜全体のガバナンス体制を構築**

③ 点検の複数回化

- ・問題作成時の点検だけではなく、**試験実施中や試験実施後においても点検**
- ・チェック体制自体も不断に点検

④ 外部から指摘があった場合の対応

- ・外部から入学者選抜におけるミスに係る指摘等があった場合には、速やかに作題者以外の者も含めて**組織的な対応で検証**

入学者選抜におけるミスについて 事例①

<事例>

試験終了直前に受験生から問題に対する質疑があり、試験実施本部で検討の結果、補足説明を行うとともに試験時間を全員10分延長することとした。
しかし、一部の試験室では伝達が間に合わず時間延長が行われなかった。

本事例は、試験実施本部から試験室への伝達に想定以上の時間がかかった
緊急時対応についての事前の想定が不十分さが原因。

「試験実施本部からの伝達にかかる所要時間」、

「緊急時に必要な体制の検討」

などといった点についても、十分な想定が必要。



教員、事務職員等関係者が一体となり、**緊急時の対応における迅速性及び公平性の確保を含めた**円滑な試験実施・伝達体制の確立に努めること。

入学者選抜におけるミスについて 事例②

<事例>

1. 「 h^2 」とすべきところ「h」と誤記してしまったなど数式・記号の誤り。
2. 「池田勇人」を「池田隼人」と誤記してしまったなど漢字の誤り。
3. 漢字の読みを問う問題で「雑言」について「ぞうげん」という読みを誤りとしていたが、辞書等によればその読み方も誤りとは言えなかった。
4. 誤りとしていた選択肢が、最新の研究では誤りとは言えなかった。
5. 100点満点としていたが、素点を合計すると合計が95点しかなかった。

など

本事例のような誤記、正答の不存在／複数存在はミス報告の中で**最多**。

ほとんどが**点検の不十分さに起因**。

試験実施後・合否発表後のミス発覚も多い。



試験問題の点検については、**試験実施直前に点検するだけでなく、試験開始後においても速やかに、作題者以外の者も含めて、二重三重に点検を行う**こと等により、ミスの防止及び早期発見に努めること。なお、問題の文面だけでなく、**問題の内容についても解答が導き出せるか確認すること**。特に**外部からの指摘等によりミスの可能性が判明した場合には、組織的な体制で検証を行うこと**。

入学者選抜におけるミスについて 事例③

<事例>

1. 別の日程の問題用紙を誤って配付した。
2. 回収した解答用紙の枚数が不足していた。
3. 面接担当教員が面接試験開始時刻を勘違いしており、試験開始時刻に遅刻した。
4. ホームページで合格発表する際、設定を誤り、正規の時間前に公表した。
5. 合否通知を誤った住所に発送した。
6. 採点の際、小問の合計得点の計算を誤った。

本事例は、責任者の指示不足や事務の確認不足などが背景にあるが

実施体制の不十分さが原因。

教員と事務職員が連携し相互に補完するような体制をとることが重要。



- ・**入学者選抜業務のプロセス全体を把握**した上で、ミスを防止するためのガイドラインを作成すること等により、**業務全体のチェック体制を確立**すること。また、入学者選抜に関わる者の責務を明確にし、**責任をもって業務を行うよう注意を喚起**すること。
- ・各担当の**業務は必ず複数人で行い、相互に確認する体制を確立**すること。



大学入学者選抜における出題・合否判定ミスの防止について（通知）

毎年、学部入試だけでなく、大学院等その他の入試においても、出題・合否判定ミスをはじめ、募集要項の作成段階でのミス、追加合格手続におけるミス等、多数の入学者選抜ミスが発生しています。特に、平成30年度入学者選抜においては、過年度の受験者に多大な影響を及ぼしたミスが発生したことを踏まえ、「平成31年度大学入学者選抜実施要項」について（通知）（平成30年6月4日付け30文科科学省高等教育局長通知）において、入試ミスの防止や早期発見について新たな事項を盛り込んだところですが、

令和3年度一般選抜においては、新型コロナウイルス感染症等に罹患した入学者志願者の受験機会を確保するため、各大学において追試験の設定等を必ず講ずることをお願いしていることや、例年に比べ出題・合否判定等の機会が増加することが見込まれるため、各大学における出題・合否判定ミス等がないよう改めて下記の点に留意し、より一層、入学者選抜の円滑な実施に万全を期すようお願いいたします。

特に、近年は入試ミスの件数が増加していることから、ミスとして報告のあった近年の事例をまとめた参考資料をご確認いただき、入試ミスの防止に努めるようお願いいたします。また、ミスが生じた場合は、受験生等への情報提供を含め必要な対応や大学入試室に対する第一報を行うとともに、できるだけ速やかに別紙報告様式に基づき報告書を作成し提出していただきたい。

記

1. 学長のリーダーシップの下、入試担当の理事、副学長等が入試業務全体を統括し、各学部等への入試担当と密接に連携し連携するなど、入学者選抜業務全般に係るガバナンス体制を構築するとともに、入学者選抜のプロセス全体を把握した上で、入学者選抜に関するマニユアルの作成等により、業務全体のチェック体制を確立する。
また、チェック体制を不断に点検するとともに、入学者選抜に関わる全ての者にそれぞれ業務内容の周知徹底を行う。
2. 試験問題の点検においては、試験実施前に点検するだけでなく、試験実施中及び実施後ににおいても速やかに、作題者以外の方も含めて、二重、三重に点検を行うこと等により、出題ミスの防止及び早期発見に努める。
また、学習指導要領や設定した出題範囲との関係について確認するとともに、問題の文面だけでなく、問題の内容や条件設定についても確認するなど、受験者の立場に立ち、解答が導き出せるかなどについて点検を行う。
3. 試験の実施においては、教員及び事務職員が一体となり、緊急時の対応も含めた迅速性のある全学的な連絡体制を確立し、円滑な試験実施に努める。
4. 採点及び合否判定においては、解答や電算処理のチェック体制を確立し、点検・確認する。その際、電算処理については、予定していた処理が実際に実行されていることも確認する。
- また、合否判定結果の公表等においては、追加合格者の決定も含め、複数の担当で二重、三重に点検を行う。
5. 外部から入学者選抜におけるミスに係る指摘等があった場合には、速やかに作題者以外の方も含めて組織的な体制で検証を実施するなど、適切に対応する。
6. 入学者選抜においてミスが生じた場合には、受験者にと丁寧に、ミスの原因を分析し、再発防止策を策定し、入学者選抜に関するマニユアル等の改善を行うなど、ミスの再発防止に努める。

担当：文部科学省高等教育局大学振興課大学入試室
電話：03-5253-4111（内線2495） FAX：03-6734-3392
MAIL：gakuyusi@mext.go.jp

文部科学省高等教育局
大学振興課長 殿

報告者の職名及び氏名

〇〇大学入試ミスの報告

この度、令和〇〇年度の入学者選抜において入試ミスが発生したため、別添の通り報告します。ミスの概要は下記の通りです。

記

1. ミスが生じた学部等
(例) 〇〇学部〇〇学科
2. ミスが生じた入試方法区分、試験科目
(例) 〇年度一般選抜 A 日程、政治・経済科目
3. ミスの内容
(例) 問題文に誤りがあり、正答が存在しない設問となった
4. ミスへの対応
(例) 当該問題については全員正解として扱う
5. ミスによる追加合格の有無
(例) 有り
6. 報道発表、Web サイト掲載等の予定の有無
(例) Web サイトには掲載するが、記者発表は行わない
7. 関係者の処分、チェック体制の見直し等
(例) 検討中のため決定次第報告する

＜本件担当者連絡先＞
〇〇大学 入学センター
担当者：◇◇ ◇◇
△△ △△
連絡先：00-0000-0000
時間外連絡先：99-9999-9999

〇〇大学〇年度入試ミス報告書 (記入例)

1. 概要

(1) 学部・学科名 または研究科専攻名	〇〇学部〇〇学科		
(2) 入試方法区分	〇年度一般選抜 A 日程 国語、英語、地歴公民の3教科の成績により判定 地歴公民については日本史、世界史、政治・経済の中 から1科目を選択(年度、入試区分、試験科目等を記 入)		
(3) 試験実施年月日	〇年〇月〇日		
(4) 合格発表年月日	〇年〇月〇日		
(5) ミスのあった試験科目	政治・経済	必須 ☒ 選択 ☐	
(6) 当該入試区分の募集人員	80 名		
(7) 当該科目の受験者数	23 名 (一般選抜 A 日程全体の受験者数は 403 名)		
(8) ミスの内容	問3において、本来は (い) を正解として作成していたが、問題文中で「第〇〇条」と記載すべき箇所を誤って「第△△条」と記載してしまったため、正答が存在しない 設問となった(実施上のミスや合否判定上のミスについては、時系列に沿って当該ミ スの内容を記入)。		
(9) ミスの発見状況	合格発表後 (〇月〇日) 受験生から問い合わせ		
(10) ミスのあった問題の抜粋	問3 日本国憲法第△△条は◎◎権について定めた規定とされるが、日本国憲法 第△△条に関連する判例として最も適切な事案を以下の選択肢の中から選び、解答 用紙にマークしなさい。 (あ) ◇◇訴訟 (い) □□訴訟 (う) ■■事件 (え) ◆◆事件 ※問題冊子当該ページのコピーを別途添付 (実施上のミスや合否判定上のミスで該当する設問がない場合は、その旨記入)		
(11) ミスのあった問題の配点	3 点 (実施上のミスや合否判定上のミスで該当する設 問がない場合は、その旨記入)		
(12) ミスのあった科目の満点	100 点		
(13) 入試方法区分の満点	300 点 (国語 100、英語 100、地歴公民 100) ※配点がわかる資料(募集要項のコピー等)を添付		

2. 対応

(1) 当該ミスへの対応	当該問題については正答が存在しないため全員正解として扱う。 この加点点置により2名の追加合格者が発生する。この2名の追加合格者の対応 (連絡方法等)については学内で検討中(当該ミスへの対応について追加合格者が いる場合はその対応も含め記入)。			
(2) 当該ミスが選択科目の場合、得点調整の有無等	有 ☒ 無 ☐			
i 得点調整の有無				
ii 上記判断の理由	他の選択科目と比しても平均点の差が○点以内であり、平均点差が○点以上の場 合に得点調整を実施すると定めている学内のルールに従って処理をしたため(得点 調整の有無を判断した理由について、その根拠も含め記入してください)。			
(3) 追加合格者の有無	☒ 有 ☐ 無			
(4) 追加合格者の人数	2名			
(5) 受験生への周知方法	個人が特定されるおそれもあるため、追加合格となる者に掲載について確認を とった後、Web サイト掲載等を検討。詳細は決定次第報告する。			
(6) 報道発表、Web サイト掲載等の予定の有無	Web サイトには掲載するが、記者発表(会見・資料提供等)は行わない。			
(7) 関係者の処分の有無	有 ☐ 無 ☒	(口頭での注意等も処分に含む) 検討中のため決定次第報告する(有の場合、誰が誰に対してどのような処分を行っ たのか具体的に記入してください)。		

3. 原因の分析・再発防止対策等

(1) ミスの起きた原因 (作題時のチェック体制、試験実施体制等)	作題は、〇〇学科の問題作成委員の教員〇名が担当している。作成した問題については、作題者間で相互に確認を行った後、さらに作題者以外の学内担当者により3段階のチェックを実施しているが、〇〇の確認を怠ってしまった(ミスが起きた原因を作題時のチェック体制や試験実施体制から分析して記入)。
(2) チェック体制の見直し (新旧比較等)	検討中のため新旧比較等を含め決定次第報告する。

入試ミスの具体例

【出題】

○ 試験問題に誤字・脱字等があった

- ・記号・単位・数式等の誤り

(例) 1. 数学の方程式で、「 $-$ (マイナス)」を付け忘れた
2. 物理で「 m (大文字)」とすべきところ「 m (小文字)」と誤記
3. 「分子式」とすべきところ「組成式」と誤記
4. 数学の方程式で「 7xy 」とすべきところ「 7 」を付け忘れた
5. 「 MnO_4^- 」とすべきところ「 MnO_4^{1-} 」と誤記
6. 亜鉛の元素記号「 Zn 」を「 Zu 」と誤記
7. 資料として付した三角関数表中の数字に誤記があった
8. 「パーセントポイント」を「パーセント」と誤記
9. 「 2.20 」と記載すべきところ「 2.0 」と誤記
10. 「 $Y=\text{ReLU}^{-\alpha}$ 」とすべきところ「 $Y=\text{K}^{\alpha}+\text{L}^{1-\alpha}$ 」と誤記
11. 「 $\min^{-1}$ 」とすべきところ「 s^{-1} 」と誤記
12. 「 h^2 」を「 h 」と誤記
13. 「 $\mu \geq 0$ 」とすべきところ「 $\mu > 0$ 」と誤記

・漢字の誤り

(例) 1. 「池田勇人」を「池田隼人」と誤記
2. 「潮」を「潮」と誤記
3. 「確率」を「確立」と誤記
4. 「棄損」を「棄損」と誤記
5. 「綿絵」を「綿絵」と誤記
6. 「鉛蓄電池」を「鉛蓄電池」と誤記
7. 「排出」を「棄出」と誤記

・英語スベルの誤り

(例) 1. 「hear」を「here」と誤記
2. 「stationery」を「stationary」と誤記
3. 「craving」を「raving」と誤記
4. 「addition」を「addion」と誤記
5. 「words」を「word」と誤記

・その他の誤字・脱字

(例) 1. 「さわさわざしう」とすべきところを「さわざわしう」と誤記
2. 「わさび」と記すべきところを「さわび」と誤記
3. 「1 (アルファベットのアイ)」を「1 (数字のイチ)」と誤記
4. 「セクレチン」を「セルクチン」と誤記
5. 「歯舞群島」を「歯舞諸島」と誤記
6. 問題で「1～10の選択肢から選べ」となっていたが、実際の選択肢は1～15まで用意されていた
7. 問題で指示した字数と解答用紙に記入できる字数が異なっていた
8. 年号の誤記 (1946年を1947年と誤記した、など)
9. 英単語の下線部の発音を問う設問で、下線部を引き忘れた
10. 「1 (数字のイチ)」と「1 (アルファベットのエル)」を受験生が見間違えてしまうような形で出題してしまった

○ 出題範囲外からの出題

・学習指導要領記載の範囲外からの出題をしてしまった

(例) 1. 生物で単位「 mM 」を使用した出題で、同単位についての注釈を失念し、学習指導要領範囲外の単位を使用した形になってしまった

・募集要項上で出題範囲外としている分野から出題してしまった

(例) 1. 「化学基礎」を範囲としていたが「化学」からの出題があった
2. 「数学ⅠA」を範囲としていたが「数学Ⅱ」からの出題があった

○ 正答の不存在・複数存在

- ・正答が存在しなかった

(例) 1. 問題文の設定当時未成立の国家について、成立を前提として出題した 2. 校正の段階で正解の選択肢を誤って削除してしまった 3. 人物写真と、その人物に関する説明文を掲載し、その人物の名前を解答させる問題で、写真とは別の人物の説明文を掲載してしまった
--

- ・正答が複数存在した

(例) 1. 誤答としていた選択肢が、教科書の記述によれば正答と判断できた 2. 漢字の読み方の問題で、誤りと想定していた読み方が辞書等によれば誤りではなかった (悪食：「あくしよく」を誤りとしていたが、誤りではなかった 憤怒：「ふんど」を誤りとしていたが、誤りではなかった 雑言：「ぞうげん」を誤りとしていたが、誤りではなかった 体裁：「たいさい」を誤りとしていたが、誤りではなかった) 3. 英語のアクセントの問題で、選択肢中の単語が用法によって発音が異なり、場合により正答と判断できるものであった

- ・問題の前提条件の設定が不十分で正答が導けなかった

(例) 1. 水溶液の温度変化の設問で、比熱の設定にミスがあり正答が導けない 2. 生物の正しいグラフを選ばせる設問で、選択肢となるグラフの軸の設定が不明瞭であったため正答が導けない 3. 化学においてpHの設定に誤りがあり、正答が導けない 4. 設定があいまいな表記のため、正答が導けない
--

○ 複合型

- ・問題文中に誤記が存在し、結果として正答が複数導ける状態になってしまった

(例) 1. 生物で、前提となる条件の中に誤字が存在したため、当初予定していた正答以外も正答となった 2. 問題中で与えた式に誤字があり、その式を利用すると予定していた正答とは別の解が導ける状態となっていた
--

○ その他出題ミス

- ・問題中に解答が記載されていた

(例) 1. 漢字の書き取り問題で、問題中に解答となる漢字が記載されていた 2. 複数科目合冊の試験問題冊子で、ある科目の解答が別科目の問題文に記載されていた（公民科目の解答となる情報が、同冊子別ページの歴史科目内に記載されていた、など）
--

- ・問題冊子・解答用紙に落丁・乱丁が存在した

(例) 1. あるページとあるページが入れ違いで印刷されていた 2. 解答用紙に、一部の設問の解答欄が存在しなかった 3. 「正しい選択肢をすべて選べ」という問題で、解答欄が1つしか用意されておらず完答ができなかった
--

- ・解答の根拠としていた事実を記載している教科書が限られており、その教科書を利用していない場合解答を導けないおそれがあった
- ・講義を受けた後レポートを書かせる形式の試験で、講義内容に誤りがあった
- ・実験を行いレポートを書かせる形式の試験で、実験指示書に誤りがあった
- ・リスニング試験で一部の受験生が音声を聞き取りにくい状態におかれていた
- ・別日程の試験で使用した問題を利用して試験を実施してしまった
- ・試験監督がその場の判断で問題を差し替えてしまった
- ・出典の著書名や著者名に誤りがあった

【採点・合否判定】

○ 採点上のミス

- ・科目毎の配点を誤認し、募集要項記載の配点と異なる配点で合否判定を行った

(例) 1. 本来200点満点の科目を100点満点と誤認し、100点満点で算出したデータをそのまま合否判定に利用してしまった 2. 大学入試センター試験利用入試において、高得点2科目を合否判定に利用すべきところ、ある科目と高得点1科目で判定をしていた
--

- ・誤った正解表を用いて採点をしてしまい、正しい採点が行えていなかった
- ・出題ミス判明後に再度採点を行って出した得点をデータベースに反映させなかった
- ・採点の際、小間の合計得点の計算を誤った。

【試験実施】

○ 配付ミス

- ・複数ある問題用紙のうち配付しなかったものがあった

(例) 拡大文字問題冊子配付希望者に対して拡大文字問題冊子配付を失念した

- ・受験者が事前に申請していた選抜科目と異なる問題を配付してしまった
- ・誤って昨年度の問題を印刷し配付してしまった
- ・2日間にわたる試験において、2日目に配布すべき問題冊子を1日目に配付してしまった
- ・面接時に受験生に配付するペーパーを配付し忘れた
- ・解答の記された資料を受験生に配付してしまった

○ ミスへの対応を誤った

- ・出題ミスが発覚したが、その訂正通知が行われなかった試験室がある
- ・ミスが発覚し試験時間を延長したところ、試験室によって延長した時間が異なった
- ・出題ミスの訂正通知にも誤りが存在した

○ 受験票のミス

- ・受験票に誤った試験時間が記載されていた

(例) 正規の集合時間より1時間遅い時間が記載されていた

- ・受験票の表記ミスにより受験生が本来解くべき問題が配付されなかった

(例) 受験生が配付される問題については受験票に記載されており、それに基づいて問題配付が行われるが、その記載に誤りが存在したため配付が適切に行われなかった

- ・受験票の送付自体を失念していた

○ その他実施ミス

- ・試験中に試験監督者が試験室を離れた
- ・試験中に試験監督者が試験とは関係のない作業を行っていた
- ・試験中に試験監督者が居眠りをしていった
- ・試験中に試験監督者の携帯電話が鳴動した
- ・試験官が試験開始時刻になっても試験室に來なかった
- ・個別面接試験で誘導担当者で誤った順番で受験生を誘導した
- ・答案回収後、一部の答案を試験監督者用の机に残したまま監督者が退出した
- ・試験問題の作成を試験当日まで失念していた
- ・試験中に受けた受験生（A）の席に誤って座っていた受験生（B）を、受験生Aと認識して欠席した受験生（A）の席に誤って座っていた受験生（B）を、受験生Aと認識して試験を実施し、合否判定結果も受験生Aに通知した

【その他】

○ 出願受付のミス

- ・受験資格のない者の受験を認めてしまった
- ・Web出願システムの設定を誤り、出願期間内でありながら、出願が締め切られていた

○ 合格発表のミス

- ・合格発表予定時刻より前にWebサイト上で合格者発表を行ってしまった
- ・合格発表用の受験番号の一覧を作成しておらず、発表が予定時刻に間に合わなかった
- ・本来不合格となる者に対して合格通知を送付してしまった
- ・メールの誤送信により、試験を受けていない者に合否通知を送付してしまった

○ 入試情報の流出

- ・試験問題が学内に放置され、試験前に閲覧が可能な状態となっていた（流出の有無までは確認できず）

○ 外部からの指摘への対応

- ・外部から入学者選抜におけるミスに係る指摘等があったが、速やかに作題者以外の者も含めて組織的な体制で検証を実施しなかった

大学入試でのミスの年度別一覧

入試年度	国立大学	公立大学	国公立大学計	私立大学	合計
平成12年度	20大学 (1大学 1件)	3大学 4件	23大学 (1大学 1件)	5大学 (2大学 2件)	28大学 33件 (3大学 3件)
平成13年度	25大学 (6大学 6件)	8大学 (3大学 3件)	33大学 (9大学 9件)	22大学 (14大学 14件)	55大学 61件 (23大学 23件)
平成14年度	25大学 (2大学 2件)	9大学 (1大学 1件)	34大学 (3大学 3件)	45大学 (17大学 17件)	79大学 117件 (20大学 20件)
平成15年度	38大学 (3大学 4件)	52件 19件	52大学 (3大学 4件)	58大学 (6大学 6件)	110大学 157件 (9大学 10件)
平成16年度	31大学 (3大学 3件)	42件 13件	44大学 (3大学 3件)	68大学 (16大学 21件)	112大学 173件 (19大学 24件)
平成17年度	29大学 (3大学 3件)	45件 18件	43大学 (3大学 3件)	85大学 (15大学 17件)	128大学 210件 (18大学 20件)
平成18年度	36大学 (4大学 4件)	58件 (1大学 1件)	53大学 (5大学 5件)	94大学 (20大学 23件)	147大学 246件 (25大学 28件)
平成19年度	37大学 (1大学 1件)	47件 (2大学 2件)	49大学 (3大学 3件)	93大学 (14大学 16件)	142大学 232件 (17大学 19件)
平成20年度	37大学 55件	10大学 12件 (1大学 1件)	47大学 (1大学 1件)	138大学 (26大学 28件)	185大学 291件 (27大学 28件)
平成21年度	31大学 (3大学 3件)	48件 12件	41大学 (3大学 3件)	116大学 (21大学 23件)	157大学 297件 (24大学 26件)
平成22年度	23大学 (1大学 1件)	31件 (1大学 1件)	36大学 (2大学 2件)	92大学 (15大学 15件)	128大学 225件 (17大学 17件)
平成23年度	31大学 (2大学 2件)	42件 (1大学 1件)	40大学 (3大学 3件)	87大学 (18大学 20件)	127大学 229件 (21大学 23件)
平成24年度	32大学 45件	12大学 12件 (2大学 2件)	44大学 (2大学 2件)	109大学 (16大学 17件)	153大学 247件 (18大学 19件)
平成25年度	25大学 (3大学 3件)	35件 (4大学 4件)	36大学 (7大学 7件)	126大学 (31大学 40件)	162大学 296件 (38大学 47件)
平成26年度	26大学 43件	13大学 15件	39大学 58件	126大学 (20大学 24件)	165大学 283件 (16大学 283件)
平成27年度	26大学 (2大学 2件)	46件 (1大学 1件)	44大学 (3大学 3件)	134大学 (20大学 26件)	178大学 326件 (23大学 29件)
平成28年度	32大学 (1大学 1件)	41件 (2大学 2件)	46大学 (3大学 3件)	124大学 (16大学 18件)	170大学 288件 (19大学 21件)
平成29年度	32大学 (2大学 3件)	48件 (4大学 5件)	46大学 (4大学 5件)	114大学 (14大学 15件)	160大学 305件 (18大学 20件)
平成30年度	35大学 (4大学 5件)	53件 (2大学 2件)	55大学 (6大学 7件)	139大学 (15大学 15件)	194大学 394件 (21大学 22件)
平成31年度 令和元年度	45大学 (5大学 5件)	76件 (1大学 1件)	66大学 (6大学 6件)	143大学 (17大学 19件)	209大学 427件 (23大学 25件)
令和2年度	40大学 (4大学 5件)	78件 (1大学 1件)	61大学 (5大学 6件)	157大学 (21大学 27件)	218大学 476件 (26大学 33件)
令和3年度	10大学 13件	1大学 1件	11大学 14件	8大学 (1大学 1件)	19大学 22件 (1大学 1件)

- (注) 1. 上記は文部科学省に報告のあったものである(募集要項のミス等は含まない)。
2. 上記は学部入試(編入学を含む)に係るものである。
3. 下段の大学数・件数は、合格発表後に追加合格を出したミスの件数で内数である。
4. 令和2年11月25日現在の大学数・件数である。

試験問題作成時における主なチェック項目

- 実施体制上のチェック項目例
 - 入試担当部署と作題等担当部署が連携を取り合うなど、全学としてミスを防ぐ体制が構築されているか
 - 試験前・試験日・試験後においてミスが生じた場合に対応するフローや得点調整のルールなど、不測事態時の体制が用意されているか
- 問題作成、採点上のチェック項目例
 - 学生募集要項に示した出題範囲からの出題になっているか
 - 「高等学校学習指導要領」に準拠した試験問題となっているか
 - 誤字・脱字等はないか(数字・年号・単位の使用方法や表記、スベルのチェック、図・表と本文の符合の確認など)
 - 別ページ等にヒントや答えになる部分はないか
 - 択一問題の場合、複数正解はないか、また、同一の選択肢はないか
 - 問題文と解答用紙の解答欄が符合しているか
 - 「政治・歴史・外交・時事問題」などの賛否が分かれるような事柄でどちらか一方の主張を誘引するような設問になっていないか
 - 出題者、第三者が実際に試験問題のリード文、問題文を読んでみて受験生が解答できる記述となっているか
 - 試験前に正答例を作成し、第三者にも確認してもらっているか
 - 受験生に配布する試験問題が、推敲・校閲後のものとなっているか